



今月の表紙は、10月2日(土)に行われたわした保育園運動会の写真です。年長児が、オープニングでみこしをかついで入場し、園庭を一周したときを撮りました。絞り染めのTシャツを着た園児が、それぞれの種目を力一杯楽しんでいました。

今月の表紙

みんなの広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場 広報こうた係
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111(内線344)
FAX63-5139

こうたの民話

「桜ごぜん」

深溝(ふこうず)

昔、深溝拾石川の南の岸に桜の木いっぱいあるお屋敷がありました。そこに住んでいる長者夫婦に、女の子が生まれました。その女の子を、村の人たちは、「桜ごぜん」と呼びました。桜ごぜんは、回りの人たちの深い愛情につつまれ、美しい娘さんとなりました。

ある日、仲秋の名月を見て、娘はため息をつきました。長者夫婦は、「娘よ、何か心配なことがあるようだね。話してごらんささい。お父さんもお母さんも、かわいいお前のことだからどんなことでも、力になってあげよう。」とおっしゃいました。桜ごぜんは、「実は、この春から、夜になると、川の主が私のところに来て、私を来年の春、桜の花が咲いたら、お嫁さんにするというのです。」というではありませんか。

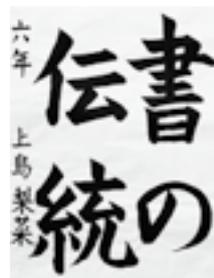
「かわいい娘のお前を、川の主のお嫁さんになんかできるもんか。お侍さんに頼んで、お前の身を守ってもらおう。」と、それが

らは、昼夜、大勢の侍が、桜ごぜんを守りました。

いよいよ、庭の桜の花が一輪咲きました。「お父さま、お母さま。今夜、川の主が私を迎えにまいります。」と桜ごぜん。屋敷の周りを十重二十重と、警護の侍が固めました。夜になり、一陣の風が吹いたかと思うと、急に長者夫婦と警護の侍たちも、身動きできなくなってしまいました。そして、一匹の白いへびが、するすると入ってきました。へびは、りっぱな若侍となり、桜ごぜんの手を引いて、川の方へと、夜の闇の中に消えていきました。

その次の朝のことです。これまでなかった乗り物のような形をした岩が、川の中にあるではありませんか。人々はこれを「乗り物岩」と名づけました。そして、はかなく消えた桜ごぜんの冥福を祈って、かたわらに七面天女の像を祭ったということです。

(「こうたの民話」の要約)



荻谷小6年 上島 梨菜 さん

みんなの作品展!

今月の作品は、幸田学童書道展入賞者からのセレクトです。



幸田小3年 伊藤 早里菜 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、広報こうた係までお送りください(デジカメ写真の場合はメールで!)

11月「口は」おりがみの日
数字の「一」が四つ並ぶこの日。その1を正方形の折り紙の一边とし、全部で四辺となることから、日本折紙協会が制定しました。同時にこの日は世界平和記念日(第一次世界大戦が終結した日)でもあり、平和を願う折り紙のイメージを表しています。同協会では月刊「おりがみ」の発行や「世界のおりがみ展」の開催などさまざまな活動を行っています。
一枚の紙から美しい花や、かわいい動物などを折ることが出来る折り紙は、日本に古くから伝わる文化として、たくさんの人々に親しまれてきました。折り紙は、趣味だけでなく、教育やリハビリテーションに効果があることも分かっています。
江戸時代に生まれ、はぐくまれてきた作品に加えて、明治以後には、ドイツの教育者フレーベルによる幼児教材(恩物)として考案された折り紙も取り入れ、再構成された作品が「おりづる」や「やつこ」など、現在「伝承折り紙」と呼ばれているものです。
「折り紙」という言葉には書画や刀剣などに付けられる鑑定書の意味もあり、慣用句の「折り紙付き」(ものごとや人物などについて世間一般の評価が定まっていること)はここからきています。

※資料: 日本折紙協会 <http://www.origami-noa.com/>



青春トークリレー

△△第212走者△△

ながや ゆり
長谷 友里 さん

桐山区在住 20歳 大学生
身長 160.8cm A型

好きなタイプ 落ち着いていて笑顔がステキな人

好きな芸能人 三浦春馬、佐藤健

今年成人し、大人への仲間入りを果たしました。現在、わたしがとても楽しんでいることは、大学生活です。去年までの苦しい受験勉強も今年は終了することができました。友人にも恵まれ、たくさんの良い刺激をもらっています。

また、夢中になっているのはサークル活動です。大学内にある管弦楽団でピオラを演奏しています。中学の部活動でピオラを演奏していたのをきっかけに、再び音楽を続けることにしました。今まで触れたことのないジャンルの曲に挑戦でき、いつも笑顔が絶えず、自然体でいられるこの環境と切磋琢磨できる仲間が大好きです。「今のわたし」に成長できたこの幸田町に感謝しています。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



一回目の訪問は6月中旬の蒸し暑い日で、田んぼの中の道を40分かけて歩いていったので着いたころにはみんなクタクタ。そのうえ、初めての体験にとっても緊張した子どもたちでした。しかし、二回目の9月17日はバスで行けるといいうことも

わんぱくぐんぐん

「某月某日」
「わした保育園」

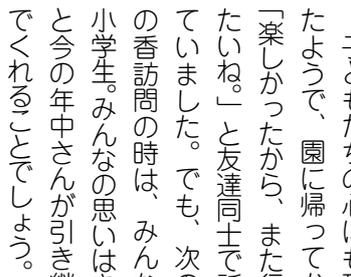
ケアホーム穂の香訪問

わした保育園では年に2回、ケアホーム穂の香のおじいちゃんとおばあちゃんに年長児が会いに行くという行事があります。



▲一緒に玉入れをしたよ

あつて遠足気分での前の日からとっても楽しみにしていました。穂の香に着いてからは、おじいちゃんとおばあちゃんと一緒に玉入れゲームをしたり、歌を発表したり、肩たたきもしました。時間が経つにつれてみんなの表情も一層柔らかくなり、とてもいい雰囲気でした。



▲手作り壁掛けをプレゼント

子どもたちの心にも残ったようで、園に帰ってから「楽しかったから、また行きたいね」と友達同士で話していました。でも、次の穂の香訪問の時は、みんなは小学生。みんなの思いはきっと今の年中さんが引き継いでくれることでしょう。

▼備えあれば憂いなし！過日、ある講演会が終わった後に、集合写真を撮る機会がありました。（広報の仕事上よくあることですが、少し暗い室内なので、ぶれないように三脚を使用しました。数枚撮った後、念のためと思って、予備のカメラで2枚撮っておきました。あとでパソコンに取り込んで確認してみると、三脚を使用し撮ったものは、すべてピントが合っていないものでした（泣）。予備で撮ったものも、もしや...と思い確認してみると、なんとか耐えることができる写りになっていて、ほっとしました。集合写真は短時間で速やかに撮らなければならぬので、いつも緊張します。その緊張が手に伝わりほげちゃうのかも...。またまた修行が足りません。さて、少し前に、我が家ではホットプレートを買いました。家族みんな、お好み焼きやたこ焼きを作って食べました。子どもたちも、焼くのを手伝ってくれて、とても楽しく食事をしました。ある日、焼き肉をやったときのことです。私「これで焼き肉屋さんに行かなくてもいいよね。行くと、とてもお金がかかるからね。」娘「お父さん！でも、どうしてもガムが食べたくなったら、焼き肉屋さんに行ってもいいんだよ。」（焼き肉屋さんに行くと、帰りにレシでガムをくれます。実は娘は、それを一番楽しみにしているのです。）（R）

